『研究論集』日本語論文執筆要綱

（版組およびページ番号・ページ総数）

１．原稿の版組およびページ番号・ページ総数は、次のとおりとする。

（1）原稿はA4版縦置き横書き1段組とし、上下左右にそれぞれ30mmの余白をとる。1ページの字数は、和文の場合は44文字38行，英文の場合は88文字38行とする。

（2）原稿にはページ番号を入れない。論文の長さは、図表・資料・参考文献すべてを含めて10ページ以内とし、ページ総数は偶数であることが望ましい。

（字体および算用数字表記）

２．字体および算用数字表記は、以下のとおりとする。

（1）字体

　和文についてはMS明朝、英文についてはCenturyとし、フォントは和文英文ともに、タイトルも含めすべて10.5ポイントとする。英文要旨の見出し、キーワードの見出しと内容、章・節・項目・謝辞・注・参考文献の見出しはすべてボールドとする。

（2）算用数字

　本文中では桁数に関わらず半角数字を用いる。算用数字のフォントはCenturyに統一する。但し、「注１）（右肩上付き文字）」、執筆者の所属番号「１＊（右肩上付き文字の数字とアスタリスク）」のみ全角を用いる。

（タイトルおよび執筆者名）

３．タイトルおよび執筆者名の表記は、次のとおりとする。

（1）タイトル

　1行目から始め、センタリングする。フォントは10.5ポイントとする。サブタイトルがある場合は、改行した上、全角ダッシュ「―」で始めて半角1スペース空け、サブタイトル、さらに半角1スペース空けて、再度全角ダッシュ「―」をつける。

（2）執筆者名

　タイトルから1行空けて記し、センタリングする。姓名の間を全角1スペース空け、名前の右肩に上付き文字「１＊」を入れる。右肩上付き文字の数字とアスタリスクは全角とする。連名の場合は執筆代表者名に「１＊」と付して先頭に記し、他の執筆者名との間は全角のカンマで区切る。右肩上付き文字の数字とアスタリスク「＿＿１＊，＿＿２＊，・・・」によって、全執筆者名に所属番号を付す。なお、同じ所属先には同じ番号を付す。

（3）英文表記

　和文原稿の場合は、執筆者名から1行空けて英文タイトルを、サブタイトルがある場合は半角「:」を付し、改行してサブタイトルを、さらに1行空けて英綴りの執筆者名を、いずれも10.5ポイントでセンタリングして記載する。前置詞と冠詞以外は大文字で始めること、ただし機能語の場合はその限りではない。執筆者が2名の場合は執筆者名の間を “and” で区切る。3名以上の執筆者の場合は、カンマで区切って横に並べ、加えて最後の区切りには “and” を挿入する。なお、氏名の英文表記はTANAKA Taroとする。

（執筆者の所属）

４．本文の末尾に、全執筆者の所属機関名を記す。上付き数字とアスタリスクを（　）の左肩に記し、（　）に所属機関名を入れる。例：

１＊（北陸高等専門学校立山キャンパス）２＊（Heathcliff University）

（英文要旨：Abstract）

５．英文要旨は、10.5ポイントのCenturyボールドで「Abstract」と見出しを付し、改行した上で、英文で100 words程度とする。フォントはCenturyで10.5ポイントとする。1行目は半角5スペースインデントする。

（キーワード：Keywords）

６．キーワードは、英文要旨との間を1行空けて、10.5ポイントのCenturyボールドで「Keywords」と見出しを付し、全角のコロンを入れ、その後にキーワードをCenturyボールドで列挙する。英単語もしくは英フレーズで表し、4つ以内とし、語（句）の頭文字を大文字とする。句読点は半角カンマを用い、半角2スペースを空けて次のキーワードを記す。例：

**Keywords：Extensive reading, Corpus-based, Encoding, Collocation**

（章・節・項目の見出し）

７．章・節・項目の見出しは次のとおりとする。

（1）章の見出し

　10.5ポイントのボールドとし、上を1行空ける（改行1行）。見出し番号の数字はCenturyとし、後ろにピリオドを入れ半角1スペースの後、見出し文を記す。

（2）節・項目の見出し

　10.5ポイントのボールドとし、上を1行空ける。ただし章見出しの直後に文章や図表がない場合は、章見出しとの間の1行空けは不要。見出し番号の数字はCenturyとし、数字間は左右スペースなしでピリオドを入れる。見出し文との間は半角1スペース空ける。

（本文）

８．本文は次のとおりとする。

　横書き1段組で44文字38行を1ページとし、字体は10.5ポイントのMS明朝、算用数字はCenturyを用いる。段落の最初は全角1スペース空ける。句読点は 「、」「。」を用い、全角で表記する。（　）等の記号も全角を用いる。本文はすべて両端揃えとする。

（図、表、写真、グラフ等）

９．図、表、写真、グラフ等は次のとおりとする。

（1）写真とグラフは図として扱う。

（2）図、表には番号と簡潔なタイトルをつける。タイトル番号は半角を用い、「図1」、「表1」等と表記する。番号は10.5ポイントのCentury、タイトルは10.5ポイントのMS明朝で記す。コロンは全角を用いる。

（3）タイトルの位置は、表の場合は上部、図の場合は下部とし、センタリングする。

（4）図表は本文行に含めず、上下は１行空ける。例：

（空白行）

　　　　　表1：タイトル

　　　　　　　　　　　図1：タイトル

（空白行）

（5）図、表は白黒で作成し、本文に挿入する。図、表中の文字は読み取りやすいよう十分に大きくし、画像は鮮明なものを用いる。説明等は、図表に含めず本文内で行う。

（文献の引用・言及）

１０．文献の引用については、次のとおりとする。

（1）原文をブロック引用する場合は、本文と引用部分との間を1行ずつ空け、和文の場合は全角3スペース、英文の場合は半角10スペース行頭を下げる。なお続けてブロック引用する場合は、引用と引用の間を一行空ける。

（2）引用を本文中に組み込んでも3行以内のものは、「　」内に入れて示す。ただし例文比較のようなものはブロック引用しても良い。省略した部分は「…」（和文）もしくは「. . . 」（英文：three dotsただしdotの後ろはそれぞれ半角1スペース空ける）で明示する。

（3）引用・言及の典拠は、（　）中に執筆者名と執筆年を記す。執筆年は半角表記で、執筆者名と執筆年の間に全角カンマを入れる。例：（吉田，1999）。ページ数を示す必要がある場合は執筆年とページ数の間に全角コロンを入れる。例：（吉田，1999：138-139）。本文中にそれらの書誌データのいずれかが示されている場合は、（　）中には記載されていない情報だけを示す。

（謝辞）

１１．予算や研究内容へのサポートがあった場合は、「謝辞」でその事実を示す。見出しは「謝辞」とし、本文末の執筆者の所属を記載した行から1行空けて記す。見出しは10.5ポイントのボールドとする。

（注）

１２．「注」については、以下のとおりとする。

（1）本文中に説明・議論内容を入れることが困難な場合にのみ、「注」を用いる。注は脚注でなく、尾注とする。

（2）見出しは「注」とし、「謝辞」がある場合はその文末から1行空けて、ない場合は本文末の執筆者の所属を記載した行から1行空けて記す。2行目以降は行頭を全角2スペース空ける。

（3）見出しは10.5ポイントのボールドを用い、片括弧を付ける。

（4）なお本文中には、注１）注２）のように上付きで挿入する。算用数字は「全角」とする。句読点（「、」や「。」）がある場合は、その中に組み込む。例：

…言及があるが注１）、…とされている注２）。

（参考文献）

１３．引用・参考にした文献は、原稿の最後にまとめて次のとおりに記載する。

（1）見出しは「参考文献」とする。10.5ポイントのMS明朝で、ボールドを用いる。上を1行空ける。

（2）書誌データは、見出しの次の行から、外国語文献、日本語文献の順に記す。ただし「外国語文献」、「日本語文献」という小見出しは不要。書籍の場合、出版社の所在地は記載しない。オンラインから得た情報にDOIがある場合は、DOIを記し、DOIがない場合は、その学術誌のウェブサイトURLを書く。検索日の記載が必要な場合（オンライン辞典など常に更新され、過去の情報が残らないもの）のみ “Retrieved from …” と記載する。

（3）表記は10.5ポイントとし、句読点は外国語文献では英語Century（半角）の「 , . ; : 」を、日本語文献では日本語MS明朝（全角）の「，．；：」を用いる。2行目以降は、行頭を半角4スペース（外国語文献）または全角2スペース（日本語文献）空ける。

［ア．外国語文献］

　10.5ポイントのCenturyを用い、著者のアルファベット順で列挙。基本的にはAPAスタイルに則り、各ピリオドの後は半角1スペース空け、2行目以降は行頭を半角4スペース空ける。ファーストネームは最初の文字だけ表記する。

a) 雑誌記事　Article in a journal:

Author (Year). The Title of Article. *The Title of a Journal,* *Vol.xx* (x), pages.

（2行目以降は半角4文字インデント。タイトルと巻はイタリック体に。）

<ex.>

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan*, *35* (3), 123-134.

Cocet, T., & Kosen, J. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan, 35* (3), 123-134.

b) 書籍中の記事　Article in a book:

Author (Year). The Title of Article. In Author (Ed.), *The Title of a Book* (pp.xxx-xxx). Publisher.

<ex.>

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. In S. Kosen (Ed.), *Teaching Technical English in Japan* (pp.123-134). Whitewell.

c) 書籍　Book:

Author (Year). *The Title of a Book*. Publisher.

<ex.>

Kosen, J. (2001). *Teaching English for Engineering Students: A Pedagogical Framework and Methods*. Whitewell.

d) Web上の記事

d1) DOIがある場合

Author (Year). The Title of Article. *The Title of a Magazine*, *Vol.xx* (x), pages. https://doi.org/xx.xxxx/xxxxxxxxxx

<ex>

McCauley, S. & Christiansen, M.H. (2019). Language Learning as Language Use: A Cross-linguistic Model of Child Language Development. *Psychological Review*,*126* (1), 1-51. https://doi.org/10.1037/43v0000126

d2) DOIがない場合

Author (Year). The Title of Article. *The Title of a Magazine*, *Vol.xx* (x), pages. <http://xxx.xxxx.xxx/xxxx/xxxxx/xxxx.pdf>

<ex>

Ahmann, E., Tuttle, L.J., Saviet, M., & Wright, S.D. (2018). A Descriptive Review of ADHD Coaching Research: Implications for College Students. *Journal of Postsecondary Education and Disability,* *31* (1), 17-39. https://www.ahead.org/professional-resources/ publications/ jped/archived-jped-jped-volume-31

d3) 検索日の記載が必要な場合

Author (Year). The Title of Article. The Retrieved date, from: URL

<ex.>

Morey, M.C. (2019). Physical Activity and Exercise in Older Adults.UpToDate. Retrieved July 22, 2019, from https://www.uptodate.com/contents//physical-activity-and-exercise-in-older-adults

［イ．日本語文献］

　10.5ポイントのMS明朝を用い、著者のあいうえお順で列挙。句読点は「，」「．」を用い、全角で表記する。（　）も全角を用いる。2行目以降は行頭を全角2文字空ける。

ａ）論文（書籍に掲載された論文の場合）：

著者名（出版年）．「論文名◯◯◯◯◯◯◯◯」．編者名（編）『書物のタイトル◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯』ページ番号．出版社．（2行目以降は全角2スペースインデント）

（例）

横川博一（2006）．「第10章　語彙と文法はいかに関連しているか」．門田修平・池村大一郎（編）『英語語彙指導ハンドブック』（pp. 259-271）．大修館書店．

ｂ）論文（雑誌に掲載された論文の場合）：

著者名（出版年）．「論文名◯◯◯◯◯◯◯◯」『雑誌のタイトル◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯』第◯巻，第◯号，ページ番号．（2行目以降は全角2スペースインデント）

（例）

井上英俊（2022）．「遠隔授業で実施する英単語テストの得点状況と受験者の印象－ケーススタディ－」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第41号，175-184．

久保田佳克・岡﨑久美子・飯田清志・矢澤睦（2019）．「高専生の英語語彙サイズの変化と学習動機－仙台高専本科生の場合－」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第38号，71-80．

ｃ）書籍：

著者名（出版年）．『タイトル◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯』出版団体．

（例）

中田達也・鈴木祐一（編）（2022）．『英語学習の科学』研究社．

ｄ）Web上の記事

ｄ1）DOIがある場合

著者名（出版年）．「論文・記事名◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」．https://doi.org/xx.xxxx/xxxxxxxxxx

（例）

篠村恭子・服部真弓（2021）．「高専での英語多読指導におけるオンライン記録媒体多読Moodle導入による指導者意識と指導の変容に関する質的研究」．https://doi.org/10.18983/caselejournal.51.0\_1

ｄ2）DOIがない場合

著者名（出版年）．「論文・記事名◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」．http://xxx.xxxx.xxx/xxxx/xxxx.pdf

（例）

宮本友紀・藤田卓郎（2017）．「多言語環境で働く技術者の英語力に関するニーズ分析」．https://karin21.flib.u-fukui.ac.jp/repo/TL10096653

ｄ3）検索日の記載が必要な場合

著者名（出版年）．「論文・記事名◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」．URL（最終検索日：〇〇〇〇年〇月〇日）

（例）

全国高等専門学校英語教育学会（n.d.）．「COCETのあゆみ」．http://cocet.org/history.html（最終検索日：2023年9月9日）